

令和7年度 第5回

日南市教育委員会

会議録

令和7年8月21日(木) 午後2時45分から
日南市役所別館1階会議室2

- 1 会議の名称 令和7年度教育委員会 第5回会議（定例）
- 2 会議日時 令和7年8月21日（木）
午後2時45分から午後4時まで
- 3 出欠確認
 - （1）出席委員 都甲政文、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信、谷口智子
 - （2）事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
学校教育課管理係長
生涯学習課文化財係長
学校教育課管理係主任主事
 - （3）欠席 生涯学習課長
- 4 場所 日南市役所別館1階会議室2
- 5 傍聴者 0名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和7年度第5回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員5名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【鬼束部長】
「生涯学習課の重永課長が本日別の会議に出席のため、欠席となっておりますので、代わりに平原係長の方が出席されております。」

【都甲教育長】
「本日傍聴の方は0名です。」

8 活動報告

(1) 教育長活動報告

【都甲教育長】

・7月25日、南浦塾の視察に行きました。子どもたちのいろいろな工作などを見たんですが、やはり非常にですね、子供たちが生き生きしていました。これはもう毎年抽選になるぐらい人気なんですけども、着いてきている親御さんもですね、一生懸命見ていて微笑ましかったです。

・7月25日の午後、県の財務福利課の課長が来られました。避難所としての体育館に冷房をつける予定はあるのかみたいな話を聞きにきてですね、うちの市の現状の話などをしました。

・国スポ・障スポの実行委員会第1回ですね。たくさんの方が集まってですね、皆さんにも来ていただいたと思いますけども、今までの流れを確認したところでした。

・それから7月28日気仙沼訪問団。これは3年に1回ですね。かつお漁船の入る気仙沼ですね、その船に乗っている親御さんの子供たちとかを招待してくれて、今年3年ぶりに南郷の子供たちを中心に、子供たち11名ぐらいですね。そして先生たちにも着いていってもらったんですけども、潟上小の荻山校長先生にですね、行ってもらいました。2日後に津波の警報が出てですね。あそこは気仙沼なので、予定を変更してすぐ体育館に避難して、結局津波の警報が切れるまではずっと体育館にいたらしいです。時々バスの中に入ってちょっと時間を過ごしたみたいですね。その後に荻山校長が言われたのは、子供たちには体育館に行ってお飯が出たんだけど、やっぱり気仙沼の市役所の方が一生懸命してくれて、あったかいご飯が出たんですよ。子供たちは体育館に来てご飯が出るんだけど、やっぱり地元の市役所とか、地元の方は食べるものを持って来ずに逃げてきた方がいらっしゃるってことだったらしくて、何かしらこう感じるものがあつたんじゃないか、子供たちにとってはと。無事だったから言いますけども、良い経験をしたのかなというふうに話したところでした。

・それから7月28日、国スポ障スポの県の実行委員会がありましたので、出させてもらいました。

・続いて29日。これは毎年あるんですけども、人権同和教育の南那珂地区の大会ということで講師の方がいらっしゃいまして、研究発表がありました。ジェンダーについて話していただきました。

・29日、拠点校。今、拠点校方式っていうのはやってないんですが、部活動の中体連の秋の大会があるんですけど、中体連の規定だと3校しか合同して含めないらしいんですよ。そしたら、日南市の学校で野球部が4校だったら何とか組めるっていうことで、それは市の方が拠点校として定義づけをしてくれたらやれるんだってことで、4校の校長が要望に来まして、どうですかというものですから、わかったと。その代わり、ちゃんとその各学校で動いて保護者への連絡と了解と、運営の仕方ってのをお願いしますってことでお願いしたところでした。

・それから校長会ですけども、ちょうどこの時津波を受けたものですから、やはりもう早

めに終わったんですけど、印象に残ってるのは、この時油津中の校長先生は来なかったんですよ。ちょうどやっぱり部活なんかで子どもが来ていて、一緒に津の峯に登ったということで、終盤に来られたんですけど、もう汗びっしょりでですね。やっぱりそういう時は校長としてはもう場所からは離れられないってことでね、そういうことでした。

・それから7月30日に新しいALTが来ましたので、また辞令交付をしました。下の名前はマークスっていうんですけど、アメリカから来ました。非常に良い感じの人ですね。

・8月1日、職員の異動がありまして、欠員になっていました学事係の就学児健診とかをする担当の職員が入ってきました。

・続きまして、知事との本音トークっていうのが本市もありまして、私も来賓としてそばで見させてもらったんですけども、その中のメンバーとして佐藤委員が。また後ほどお話を聞かせていただければと思います。

・市PTAの役員さんとの意見交換会。これは去年からやってることですね、それには谷口委員も一緒に参加していただきました。

・そして8月5日人幸塾。今年は高校生9人、大学生は1人ですね、来てくれまして、新聞にも載ってたんですけど、4年目の小学校中学校の男性の先生がですね、丁寧に説明してくれて、感想を聞くと、もっともっと先生になりたい気持ちが強くなったとかですね、ということで、何年後かに一緒に働ければいいなっていう話をしたところでした。

・同じ日ですけど、1年目5年目研修ってことで、教員になって1年目から5年目の先生を集めて研修をやってるんですけど、校長会の会長の田脇校長先生にまず1時間ほど自分の歩んできたところで、これを振り返りながら教師とはっていう話をしてもらって、そのあと授業の流し方とか、そういうことでグループ協議をしました。

・続きまして8月7日、県防水工業事業。つまり防水の組合がありまして、県内を回ってですね。東郷小中学校に今年は来ていただいたということで。例えば高いところ、のりがついたところとかですね、高圧洗浄機でやってもらったりして。私も挨拶に行ったんですけど、30、40人ぐらい見えてですね。なかなかやっぱり保護者の方に頼んでも、やっぱり高いところですので。本当にありがたいなという話をしたところでした。

・8月7日午後、図書館協議会がありました。今年は図書の計画をですね、ちょっとマイナーチェンジというか、やり変えなきゃいけないので、そういうことをお願いしたところでした。

・続いて8月8日わかすぎ塾ですね。午前中にこども議会が予定されていたんですけど、これ線状降水帯が来るっていうことで、もうなしにしました。やはり何が起こるかわからないし、市長を3時間拘束するわけにはいかないということでですね、残念ながら。わかすぎ塾だけはしたんですけども、今年はちょっと外部の方お願いしてですね。子供たちが起こす業「企業」っていう、そういうことに関連するような、発想を持つようなことを仕掛けていただいて、学校のことだけじゃなくて、いろんなことを改善していくためにはとか、発展させていくためにはっていうことで。3年生が中心ですよ、でもこれは。3年生が中学校を出たあと、そういう自分に力をつけてくれるようにっていう形でやってみました。非常に講師の

先生が流し方が上手で、子供たちも時間を忘れるぐらい一生懸命やってくれました。

・8月12日、日南 Hybrid っていうこれ、バレーボールチームですけども、市長表敬に来ました。これはクラブチームなんですけど、2年続けて全国大会に出るということでした。

・14日は小村寿太郎の顕彰会。飢肥で寿太郎祭りというお祭りがありますけども、そのスタートとして小村寿太郎の生誕の地の碑の前で研修会を毎年行っております。

・17日、日南市戦没者追悼式。報道によるとやっぱり300人ぐらいお見えになったみたいですけども、毎年中学生が誓いの言葉みたいなことを言うんですけど、今年は油津中学校の生徒会の役員の子がですね、立派にやっぱり中学生代表として誓いの言葉を言ってくれました。

・それから8月18日19日はですね、初めてですけども、教頭先生たちのヒアリング。一対一の面接を20分ほどやらせてもらいました。普段はゆっくり話す時間がないものですから、20分という時間ですけども、考え方とか、校長先生との仕事のやり方とか、そういうのを話題にしながらですね、話をしたんですけども、やっぱり全体的に思うのは、本当に一生懸命学校のために頑張っていたいていうのを感じたところです。今度はその中の何名かが皆さんと一緒に意見交換をするってことですので、またお願いします。

・昨日の午前中。B&G 海洋センターっていうのがあるんですけど、その南九州ブロック大会があって、鹿児島、熊本、宮崎。そしてその子たちがカヌーと水泳で来まして、午前中ぐらいに終わったんですけども、日頃の練習の成果を発揮してくれたようです。

・午後は教育講演会でした。後でまた皆さんもお話をしていただきたいんですけども、事前に私が前に立って話をしたじゃないですか。やっぱりあれをしないと、ずっと入っていかない場合もあるんです。情報を見ると大きい目的しか書いてないんです。資質を向上させるっていう。高校生の子たちをどういう形で呼んだかっていうのをやっぱり話をしないと、やっぱり学校の先生とはいえずね、多くの先生たちがぼやっとして聞いてしまう場合もあるんですよ。これ子供と一緒に、もちろん子供扱いをするわけじゃないんですけど、やっぱりより深く聞いてもらうためにはああいう導入がやっぱり必要なのかなと。で、私がちらっと「高校生ですので、皆さんが雰囲気を作っていただけたら」って言ったら、とっても今までにないような大きい拍手で高校生を迎えてくださって、高校生も終わった後に良かった。話しやすかったというふうに言ってくれたんで、何かやっぱりこう、話し手をどんどん盛り上げるのはやっぱり聞き手でもあるのかなと、そういうのを感じました。

・そして先ほどの総合教育会議ということで、またそちらについてもご感想をお願いします。

（２）委員活動報告

【別府委員】

7月25日に国スポ障スポの実行委員会、そして7月29日が共同募金の運営委員会。8月の20日が赤十字日南地区の理事会に参加してきました。同日の午後の8月20日なんです

けれども、こちらの小村寿太郎侯顕彰弁論大会に、審査員として参加させていただきました。今回 10 名の高校生が発表してくれたんですけれども、テーマは 3 つありまして、1 つが「今年は国連創設 80 周年で分断や対立が深まる中、国連が国際社会の利益にこたえるために必要なことは何か」。もう 1 つが「国連の総会議場で自由にスピーチをすることができたら何を訴えるか」。そしてもう 1 つが「多国間主義は今どのような課題に直面していると思うか、多国間主義は今後も必要なのか」。この 3 つのテーマの中から選んで弁論をしてくださいという内容で、非常に難しいテーマの中、そんなテーマにもかかわらず、どの弁論もそれぞれ本当個性がありまして、また、自分ごととして真剣に考えて未来を良くしていきたいという気持ちがですね、溢れている弁論大会でした。今回最優秀賞、優秀賞、日英協会会長賞など順位がつく大会だったんですけれども、甲乙つけがたい素晴らしい発表ばかりでした。

【佐藤委員】

8 月 1 日の知事との本音トーク。全員で 13 名でしたかね。教育関係が私 1 人だったんですけど、医療関係もまた 1 人ということで、バランス良くってということなんでしょうけど、ちょっと教育福祉医療関係が少ないなっていうのを思いまして。ちょっと教育に携わってる者としては寂しいなっていうのがありました。私も何を話したか覚えていないんですけど、やっぱり学びの多様化っていうのをちょっとお話をさせていただいて。酒谷小にうちの卒園生が行ってるんですけどね、非常になんか充実した学校生活を送って、今度弟も卒園するんですけど、そこに行くと思うんで。やっぱりその地域環境を生かした教育課程を展開されていて、昔の同僚もそこで今勤めてるものだから、よく話を聞くんですけど、なんかものすごいやりがいを感じてるんですよ。こういうのがしたかったみたいな。だからそういうこともちょっとお話ししてですね、やっぱりもういろんな学びの場が、それぞれの地域の特色とかですよ、規模とかを生かしながら展開されると、いじめとか不登校とかもやっぱり大分違ってくるんじゃないかなというお話もしました。八木さんがいつも言っている北郷の方の猪八重溪谷も、中でそういうことをされてますよね。なんかああいうのもやっぱりこううまく取り込んでですと。今特任校は選べる形になってますけど、まだなんとなく普通の学校に馴染めないから行くんじゃないのっていう感じもある気がするんで、普通の学校に胸張って堂々と、あそこはそういう特色があるから、吾田地区だけど北郷に行くとか、北郷地区なんだけど、ああいうところで学ばせたいんで、吾田東に行くとかですよ。ある程度選べるような感じにして、その子その子に合った環境を選ぶっていうことは、やっぱりそこで主体性が出るというかですね。選べないとちょっとマイナスのことばかりで、何か無理やりここに来させたみたいなことになりがちなんで、なんかそういうのを生かせるといいなっていうようなお話をさせていただきました。知事はなんか、さすがですね。もうね、頭のいい方ですね。やっぱりこうぴしゃっとされているというか。澁みなくやっぱりもう時間がびったりというかですね。

あとですね、教育講演会ですね。もう本当企画が素晴らしいと。私が思ったのはやっぱり被爆とかですよ、原爆についての当事者意識とかは、それは厳しいだろうと思うんですけど、

彼女たちはですよ、そういう長崎に住んでるっていうことを生かしながら、この日本を世界を微力ながらも無力じゃないということで、変えていこうというすごい熱量っていうのがあるじゃないですか。そういうのはできるんじゃないかと思うんですよ。だからいろんなわかすぎ塾とかされているじゃないですか。それもやっぱり繋がるとして。自分たちで何かこの今の世の中の課題を解決できるんだとか、したいんだとかいうことを、その当事者意識っていうか市民意識っていうか、シビックプライドっていうのはやっぱり育てられる場面はやっぱりたくさんあると思うんです。原爆に関してはちょっと厳しいかもしれないですけど、戦争とか平和とかですね、人権とか、そういうので何とかしなくちゃと。やっぱり人権問題はどこにもいっぱいあると思うんですよ。だからそれは放っておけない。自分たちも何かやろうよっていうのはできるんじゃないかと。ちゃんとやっぱり学校のその特別活動、学級会等がですね。クラスの問題どうするとか、なんか友達がいじめられてるけど、自分たちでできることはないとか、そういうところからしっかり向き合っていくと、やっぱりああいう子たちに育つんじゃないかなっていうのは思いました。

発達支援の関係で学校を回らせていただいているんですけど、ちょっとやっぱりショックだったのが支援学級の担任の先生が辞められて、後が見つからないという学校があつてですよ。もうどうしようもないんですっていうことなんですけど。支援学級っていうのはですよ、もうご存じの通り、まず保護者に、うちの卒園生でもあったんですけど、おたくの子供さんはちょっと発達障害の傾向があるんで、ちょっと受診しませんかっていうところから始まるわけですよ。これがすごく大変で、親としてはですね、もう涙なんですよ。うちの子はみんなとは違うんだっていうのをまず受け入れて、また病院受診で患者さん扱いされてまたショック受けて、そのあと福祉課に行って、こども課じゃなくて福祉なんだと。そして何とかああそうかっていうので支援学級を決めるわけですよ。それで支援学級だと思って来てみたら、話が違ふと。もちろん先生だけの責任じゃない、いろんな要素もあるんですけど、担任の先生が辞めてしまわれて、希望してないわけですよ。そしたら当然子どもたちも荒れるというか、うまく回らなくなりますよね。あそこをなんかこう、うまく人を探せないのかなと。県の校長会でも校長先生が声かけて、誰かいませんかって言ってるけどいないんですよということなんですけど、子供や親にしてみれば、それだけの覚悟を持ってきたのに、約束が違うじゃないかということになってしまうんじゃないですか。そうするとやっぱり学校との関係もなかなかうまくいかないだろうし。通常学級で担任がいなくてね、他のクラスに回されるとかいうのは普通ありえない話だからですね。人数的に少ないにしろ、支援学級が一応あるということであるならば、きちんとそのね、人材確保ができないのかなっていうのはちょっと思いましたね。そういうのがやっぱりいろんなクラスにも波及すると思うんですが、やっぱりそれがその子たちだけの問題ではなくてね。先生たちもきついとは思いますが、支援学級の在籍が望ましいって言われた子たちを含めてまた30人を1人で回さなくちゃいけないわけだから。なんかね、それをうまく学びの多様化学校とかいろんな話をするとかですね。そういうのも、何か選べるような環境を作ってあげて、先生たちの応援ができれば、ただ子供たちも幸せになってくると、ちょっとそんなことを考え

ました。

【谷口委員】

私は7月25日の国スポ・障スポの総会に参加させてもらって、その時に残り800日を切っていることだったので、もうあっという間だなんて思いました。その時のお話にあったこの出前講座の話、南郷中学校には弓道部があって、弓道部の中の先輩が国スポの選手かなんかの話が来てるって。で、やっぱり子どもたちも国スポ障スポすごく楽しみにしていたので、部活動を弓道部がある学校は弓道部対象に出前講座やっても絶対面白いんだろうなっていうふうに感じました。

8月1日は市Pとしての役員会がありました。教育長と鬼東部長と重永課長に来ていただきました。私たち保護者は中学校の部活って結構悩んで、今はクラブチームもある学校の部活もある。けど、どんどんクラブチームが広がっていったらどうしようだったりっていう不安もあったので、部活動についてだったりとか、あとは今年の11月に市Pの研究大会があるので、それをどうやって進めていったらいいですかという話と、あとは来年に宮崎大会があるので県Pの。そこでの講演者をどんな人にすればいいのかなあっていうのがあって、今年は福岡市開催で速水もこみちさんが来るので。ちょっと宮崎も頑張りたいよねって話したところでした。また重永課長がいろいろアドバイスをくださったので、よかったなと思います。あとこの時に話をしたんですが、昔の油津はすごくにぎやかだったって話があって。私は今の油津商店街しか知らないの、映画館があったんだと驚いて、またそういうのが復活すればいいなあと感じた1日でした。

8月20日の昨日の教育講演会は、もう高校生の話し方がすごく上手で、何かこう子供っぽいしゃべり方でもなく、すごく緊張しながら一生懸命話したのがすごく引き込まれていて、もう本当に勉強になるなあっていう思いがしました。ずっと話をしているだけじゃなくて、一緒に考えてくださいっていうディスカッションとかもあって、なんかずっと聞いているだけじゃないのもすごく勉強してるなって。そのタイミングでディスカッション入れてくるのすごいなって。なんかその流れもとても勉強になったような気がしました。結構目とか耳で体感をするっていう部分があって。私もそうなんですけど、修学旅行って広島だったんですけど、その時に被爆者の話とかを聞くと、もう怖いっていうのがすごくわかるんですけどそれしかも入ってこなくて、そのあとのいろんな流れ、あのとき1発目がっていうのも、もうなんかもう怖くてもう一切話が入ってこない記憶しかなくて、なので、ああいうふうに原爆ってこんなにたくさんあるんだってちっちゃいBB弾でバケツからこう出したときに、こういうのだったら入ってくるなっていうのがあって、当事者意識がやっぱりうちの娘も息子もちょっとまだ難しくて持てなかったから、子供用にこういう五感で働かせる話し方っていうのはやっぱり身近にすごい感じられるなと思いました。なので、子供たちに一番前に座ってもらって聞いてもらうのにすごく良いような回だったと思います。

先ほどの総合教育会議は、私は初めて参加で、もうなんかどういう規模で、どういう感じなのかなっていうのがあって。その副市長の方の進め方がすごくなんかこう、意見が言いや

しくて、途中で自分でも何しゃべってんのかよくわかんなくなるぐらいだったんですけど、皆さん熱くて、進め方がすごく意見が言いやすくて、そして本当にああいう機会ってすごく大切だなと思いました。

【八木委員】

私は7月25日の国スポ・障スポの総会の方に参加させていただきました。もうすでにいろんな取り組みが始まって、花を植えたりとかですね、旗を作ったりとか。始まるまでまだ時間あるんですけど、いろんな人に普及して、みんなが楽しめる雰囲気で行えればいいんじゃないかなと感じました。

あと私も昨日の教育講演会に行きましたけど、本当に核について知らないことばかりだなんてすごい勉強になったし、平和について本当改めて考えさせてもらって本当に良い機会でした。やっぱり8年活動しているということで、彼女たちも平和教育を受けて、そしてやっぱり教育って大事だなと、市民教育。市民として社会に関わるとか、ボランティアの人とかNPOと関わるとか、そういうことが彼女たちを作って、それが彼女たちの場合ね、国連だったりとか、国際的ないろんな人と関わったり、高校生と関わったりとか、そういうことで彼女たちがもう本当生き生きと輝いている。そういう子供たちが日南でもこれからね。子供たちをそういうふうに育てていきたいなと思いました。先生たちの聞き手の話がありましたけど、もう本当先生たち顔きながら聞いて誰も寝てないし、もうなんか会場全体が彼女たちの話に来てたっていうのをすごい感じて。ビデオを撮っていたのは、UMK ですかね。あれ全部取られていたので、やっぱりね、高校生とかみんな聞いて欲しいなと思ったんです。

【都甲教育長】

本当に記者さんやカメラマンの人は長く、ほぼずーっといたでしょう、全部。最後のぐらゐに裏に戻ってきて、ちょっと興奮気味に「やっぱりこれはいろんな子供たちに見せなきゃいけないですよ。聞かせなきゃいけないですよ」って。彼自身がやっぱり話を聞いていて感動したんでしょうね。ぜひ今日放送ですので、UMK で。この頃戦後80年ということで、こうなんかやってるんで、その一連の中で流すのかなと。そうじゃないとちょっと尺が長かったからですよ。長めに流して、放映してくれるのかなあと思っています。最初僕が言ったように、先生たちがやっぱりこういう、ちょっと上のお姉さんの話を聞いて、子どもにこういう感じやったよっていうことをですよ。やっぱり言って欲しいし。

あと高校生が「子どもたちの当事者意識がない時、皆さんはどうしてますか」って質問をしたじゃないですか。あれについて今朝とある校長と話したんですけど、やっぱりグサッとくる質問だったと。先生たち自身がやっぱり長崎広島はちょっとどこか違うところのものと思ってしまっていて、子供たちに話す時の気持ちとかっていうのはなかなか難しい面があるので、そこを言われた時に指導する、平和教育をしていく先生たちがどれぐらいその当事者意識に近づいていけるかっていうのは、あれで考えてくれるといいですねっていうふうに、その校長は言ってましたね。だから手が上がらなかったって逆に。いや、やってませ

ん。受けてませんとかね。そうなることもあるかもしれないし。前に楽屋でいろいろ話して、終わってからちょっと話をしたんですけども、想いつてっていうのが、本当に。終わった後、うちの職員が用意した杵屋のお菓子を食べながら話したんですけど、かわいいところもあったんですけど、やっぱりいろいろ話を聞くと、かなり自分の時間とかを使って活動している。街頭の署名運動とか募金活動とかを自分たちで。だから片方の子は、そういうのをマネジメントできるような経済学を学びたいと言っていました。そしてもう 1 人の子はやっぱり発信が大事なので、発信の仕方とかそういうのを学べるようなところに行きたいと。あと講演の中で小学校に行くって言ったじゃないですか、平和学習。でも学校の時だから、彼女たちは自分の学校の授業を受けずに参加してるんですね。出席扱いにはしてもらってるみたいなんですけども、でも授業を受けられないので、やっぱり誰かにノートとか取ってもらって行くんでしょうね。その代わり、ああいう活動をしながら、今回はボストンに行ったりとか。海外ともやっぱり交流をしてるっていうことで、そういう感じだったですね。

9 前回の議事録承認

第 4 回の議事録について了承

10 議題について

協議 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(鬼東部長)	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について説明。
(都甲教育長)	ということです。よろしくお願いします。

協議 2 9 月議会上程議案等について

(鬼東部長)	9 月議会上程議案等について説明。(学校教育課)
	”(生涯学習課)
(都甲教育長)	大窪小のことが出ていますけれども、今度の 9 月議会で公になると、閉校のことがですね。いよいよということです。
(八木委員)	今お米高いですけど、地元の人から何かこうちょっと安くで買ったりとか、そういう地産地消のお米とかないんでしょうか。
(鬼東部長)	1 日 3003 食分になるんですけども、安定的に供給できるのであればというのは。あと配達までしていただけるっていう、その部分がちょっとあると思うんです。1 回 2 回位とか限定であれば、例

	えば去年までだったら地産地消給食で吉野方の飼肥ファームが 1 回だけ安く提供していただいたと思うんですけども。
(八木委員)	今新米の方が安いんですよね、去年のお米よりも。ニュースでやってましたけど、そういうルート関係でね。
(都甲教育長)	やっぱり頭が痛いですね、物価高騰で何でも、どれもそうなんですけど。

議事 3 ふれあいコミュニケーションについて

(武田主任主事)	ふれあいコミュニケーションについて説明。
(都甲教育長)	1 時間 15 分っていう限られた時間なので、テーマ 2 つぐらいがちょうどいいだろうなということで、このテーマで行かせていただいて。コロナのあと、PTA 活動がどうなのかっていうことについて、やっぱりどの学校も考えてるのもありましたので、ちょうどよかったなと思います。このテーマ 2 つにつきまして参加予定の教頭先生方には事前に連絡をしておいて、考えてきてもらうということで考えております。ですから、皆さんもいろいろ聞いてみたいことがあったらですね、考えておいていただいてもいいかなと思いますので、いろいろ聞いてみたいことがあったら、よろしくお願いします。去年は一般の先生だったんですよね、はい。そういうものを含めて良い意見交換になればいいですね。

議事 3 県外先進地視察について

(武田主任主事)	県外先進地視察について説明。
(別府委員)	これって、日程調整っていうのはもうこの日っていう形で来るんでしょうか。それともまた期間中のこれから選んでくださいという形になるんでしょうか。
(武田主任主事)	今のところは相手方からこの日はどうですか、というように候補日をご提案いただいているところです。以前に皆様のご都合をお聞かせいただいているので、予定のない日を調整していきたいと思っています。
(八木委員)	その頃は多分学校訪問もありますよね。

(都甲教育長)

単独訪問はあくまで単独で全部行うからですよ。日程の変更をしてもあまり労力がかからないから大丈夫です。相手の都合もあるものですから、もうちょっとお待ちいただければと思います。

(3) 9月行事予定について

※ふれあいコミュニケーション

- ① 日時 令和7年9月19日(金) 午後1時30分から
- ② 場所 日南市役所別館2階会議室5

※第6回 教育委員会会議(定例)

- ① 日時 令和7年9月19日(金) 午後3時から
- ② 場所 日南市役所別館2階会議室5

【都甲教育長】

- ・この記念講演会は整理券ですか。

【鬼束部長】

- ・はい、整理券で無料です。もし委員の方でご興味がありましたら、私か生涯学習課長の方に仰っていただければ、確保いたします。

【都甲教育長】

- ・平原係長、この磯田先生は日南に来られたことがあるんですか。

【平原係長】

- ・いや、ないと思います。結構有名な方で、歴史好きな方なら大体分かっていると思うんですが、知らない方でも話を聞けば分かりやすく話してくださる方なので、難しい話は多分されないと思います。

【都甲教育長】

- ・結構テレビとかにも出ていますよね。お時間のある方はぜひ行かれてください。

【佐藤委員】

- ・市議会の質問の中にもあったんですけど、校内教育支援センターは何校くらいですか。

【都甲教育長】

- ・そんなに何校もは作れないんですよ。やっぱり不登校生の多さとか、誰が関われるかっていうのもあって。今のところ考えているのは1校ですね。

【佐藤委員】

- ・その支援学級とは違うんですよ。

【都甲教育長】

・違うんです。何ていうか、別室登校をぴしゃっとしたものにするっていう考え方ですよ。今は学年の先生が対応していて、時にはもう先生がいなくて空っぽの時もあるわけですよ。誰もつかない。それを必ず誰かがつくようにすると。そして学年も関係なくする。例えば3年生もいて、2年生もいる、みたいな感じですね。今それを作れって国もやっていて、お金の補助も出るようなので、あとは人の配置なんですよ。そういうことをやれないかなと、今ちょっと水面下で動いています。

【佐藤委員】

・そうしたら多様な居場所づくりっていうか、学校の中での、それができますね。

【都甲教育長】

・そうです。今は学校が独自にやってるんですよ。自分たちのやりくりで。そういう話でもその学校の校長にはしてて、関係者だけの話だけどって、いろいろ様子を教えてもらっています。なかなか難しくてですね、段階があるんですよ。この子はこの教室で動くけど、この子はもうちょっと教室近いほうが良いとか、すごいやっぱ心理的な面があるんですね。だからそういうのを作っても、さあできたからみんながみんなおいでっていうふうにはちょっとならないと思うんですよ。ただそういうのを作ってみて、様子を見て、それが先ほどから出てる多様化学校にもやっぱり今後どうしていかっていくことになるし。

【佐藤委員】

・校内であつた方が一緒に来て、じゃあねって分かれて行けますし。いいですよ。

【都甲教育長】

・何とかそこら辺がうまく、うちとしても事業として来年以降できればなと思っています。

12 閉会